

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の 名称	概 要
1 (学術論文) Gene Expression Changes Associated with the Loss of Heterogeneous Nuclear Ribonucleoprotein M Function	共著	2017年4月	AJMB 7: 87-98	NASH患者の肝細胞内にGlycer-AGEsが形成されることが知られている。これまでの研究において、株化肝細胞内のHNRNPMが糖化されることを見出しているが、その影響はよく分かっていない。そこで、HNRNPMの糖化による機能障害を模倣するため、HNRNPMをノックダウンし、その影響をマイクロアレイによって解析した。12頁 Jun-ichi Takino, Kentaro Nagamine, Mikoto Suzuki, Akiko Sakasai-Sakai, Masayoshi Takeuchi, <u>Takamitsu Hori</u> 担当部分：実験の立案、結果の分析、論文の監修
2 (学術論文) Identification of nonalcoholic fatty liver disease-related protein hnRNPM <i>in vitro</i>	共著	2015年10月	World J. Hepatol. 7: 2459-2469	肝細胞癌は、悪性度の高い癌のひとつであり、主な発症要因は肝炎ウイルスである。しかしながら、近年の日本では肝炎ウイルス以外の要因が増えてきており、その要因の一つに非アルコール性脂肪肝炎(NASH)が挙げられる。このNASHの発症には、毒性を持つ終末糖化産物(toxic AGEs, TAGE)が関与している。また、TAGEはその受容体であるRAGEを介して癌の悪性度を高めることも報告されている。そこで本論文では、NASHに関連したHCCと、TAGE-RAGEの関わりについて議論する。12頁 Jun-ichi Takino, Kentaro Nagamine, Takamitsu Hori, Akiko Sakasai-Sakai, Masayoshi Takeuchi 担当部分：実験の立案、結果の分析、論文の監修
3 (学術論文) Identification of nonalcoholic fatty liver disease-related protein hnRNPM, <i>in vitro</i> .	共著	2015年2月	World Journal of Gastroenterology 21(6), pp1784-1793 発行所名 Baishideng Publishing Group Inc.	NASH患者の肝細胞内にGlycer-AGEsが形成されることが知られている。これまでの研究において、株化肝細胞内のHNRNPMが糖化されることを見出しているが、その影響はよく分かっていない。そこで、HNRNPMの糖化による機能障害を模倣するため、HNRNPMをノックダウンし、その影響をマイクロアレイによって解析した。12頁 Jun-ichi Takino, Kentaro Nagamine, Mikoto Suzuki, Akiko Sakasai-Sakai, Masayoshi Takeuchi, <u>Takamitsu Hori</u> 担当部分：実験の立案、結果の分析、論文の監修
4 (学術論文) Multi-Detection by Target Mixed Loop-Mediated Isothermal Amplification	共著	2014年2月	International Journal of Biochemistry Research & Review,4(3),pp.243-252 発行所名 SCIENCEDOMAIN international	LAMP法を応用することによって、複数個のサンプルを同時に増幅することができ、それらを別々に検出することが出来る方法を開発した。(10頁) (長嶺憲太郎、葛原陽子、瀧野純一、堀 隆光、納富継宣、神田秀俊) 担当部分：論文の監修
5 (著書) スタンダード薬学シリーズII 日本薬学会編 生物系薬学 I. 生命現象の基礎	共著	2015年3月	東京化学同人	薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠して日本薬学会により編集された6年制薬学教育のための教科書シリーズ。そのうち薬学基礎「生物系薬学」は3冊から構成されており、その第1巻の「生命現象の基礎」として発刊された。 担当部分：第Ⅲ部 第15章(SBO21, SBO22)